

学校だより 令和6年12月号



文蔵小通信



さいたま市立文蔵小学校

336-0025 さいたま市南区文蔵5-16-29

TEL 863-0721 FAX 836-1583



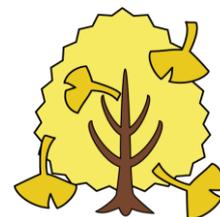
【文蔵小ホームページ】

まとめの時期

校長 渡邊 勝利

気が付けば12月。今年も残り1カ月となりました。文蔵小の校庭のけやきもすっかり色付き、秋が終わり、冬の到来を告げているようです。

紅葉と言えば、赤色、黄色、黄褐色、オレンジなど、様々な色を楽しむことができます。緑色も加えると、秋のこの景色は人々の心を捉え、ため息が漏れるばかりです。紅葉を使った表現には、「初紅葉」「庭紅葉」「野山の錦」「落葉舟」など、様々なものがあります。見る時期、場所、心情により使う言葉も変化します。校長室から見える景色（11月中旬～下旬）は「初紅葉」「庭紅葉」でしょうか。11月7日・8日に6年生と行った日光修学旅行は、「野山の錦」がぴったりでした。もう少し季節が進むと、「落葉舟」になりそうです。秋のこの時期に限定された「紅葉」は、散りゆく儂さに魅せられるのかもしれませんが、それは、春の桜や限りある人生にも似たものです。だからこそ、人は惹かれるのでしょう。



さて、長い2学期もまとめの時期となりました。振り返ると、日々の学習に加え、運動会、修学旅行、社会科見学、校内音楽会、学校運営協議会、そして、PTA主催で文蔵小祭りも行われました。多くの場面で子どもたちが活躍する姿が見られ、大変嬉しく思います。学校では、多様な教育活動を通して、主体的に課題に挑戦したり、多様な他者と協働して取り組んだりすることを大切にしています。その積み重ねが、「自己指導能力」の育成に繋がります。自己指導能力とは、「そのとき、その場で、どのような行動が適切か自分で考えて、行動する能力」のことです。この力は、一人では身に付きません。学校という集団だからこそ身に付く力でもあり、大人になっても求められる力です。

ここで、「ウェルビーイング(well-being)」（幸福）に関する研究を紹介します。慶應義塾大学の前野隆司氏によると、幸福と深い相関関係がある4つの因子があるそうです。①やってみよう、②ありがとう、③なんとかなる、④ありのままに、の4つです。①は、人生の目標を持ち、実現のために学習したり成長したりしようとする姿勢で、自分自身に向かう因子です。②は、人のために何かをしたい、喜ばせたいという姿勢で、他者に向かう因子です。③は、前向きで何事にもチャレンジしようとする姿勢です。④は、自分らしく生きようとする因子です。

目標を持ち前向きにチャレンジする、周囲への感謝の気持ちを忘れない、そして自分らしく生きていく。これは正しく、学校のあるべき姿、目指すべき児童の姿とも一致するように思います。文蔵小学校の目指す学校像、「笑顔と希望のあふれる学校」「安心安全な学校」も同じことを目指しています。人間の幸福は、あるレベルまでは収入に比例しますが、収入が一定水準を超えると、幸福度は上昇しなくなる。つまり、年収がある水準を超えると、「収入と幸福感とは相関しない」ということも分かっています。物理的な幸福は長続きしませんが、4つの因子に見られるような精神的な幸福は長続きするということです。

自己指導能力の育成を育み、子どもも教職員も well-being な学校経営に向けて、全教職員で教育活動に取り組んでまいります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

2学期も大変お世話になりました。良いお年をお迎えください。